

練馬区の将来像を考える区民懇談会

健康福祉分野分科会 中間報告書

1. 現状における課題

(1) 「地域社会」に係る課題

- ・地域における人間関係の希薄化が、介護や子育てに際しての孤立感を増大させています。障害のある人やお年寄りを中心に、生活不安が広がっています。
- ・一人暮らし高齢者世帯が増加しており、その孤立が不安視されています。特に、介護においては、一人暮らし高齢者世帯は同居世帯に比べ、在宅介護が困難となるケースが多いと考えられることから、相互扶助による仕組みの形成が求められています。

■ 「地域社会」に係る課題

- * 地域における人間関係の希薄化が、介護、子育ての孤立感を増大させています。
 - ・地域社会における人と人との関係が希薄化しており、介護、子育てなどの場面で孤立感を深めることが多くなっています。
 - ・社会の先行きに不透明感もあり、障害のある人やお年寄りは、とりわけ生活に対する不安を抱えています。
- * 一人暮らし高齢世帯が増加しており、特に孤立感を深める恐れがあります。
 - ・練馬区の一人暮らし高齢世帯数は、他区に比べても非常に多くなっています。
 - ・一人暮らし高齢者は、健康面の問題や適当な活動の場がない等の理由から孤立しがちで、周囲との人間関係も希薄化しています。
 - ・高齢者世帯が増加しており、介護者の負担軽減がないと在宅介護が難しくなっています。

(2) 「子育て支援」に係る課題

- ・安心して子育てに専念でき、子育てと親のキャリアアップが両立するような社会環境の整備と意識改革が求められています。
- ・出産から育児、保育所、幼稚園、学校まで子育てしやすい環境を整え、またそれをサポートするシステム（行政と地域力）が必要とされています。

■ 「子育て支援」に係る課題

- * **安心して子育てができる社会環境と意識改革が必要とされています。**
 - ・子どもの立場から言えば、乳幼児期は少しでも家族と一緒にいる時間が大切ですが、働き方や家族のあり方の変化などによるライフスタイルの多様化の現実があり、社会環境や一人一人の意識改革が追いついていません。
 - ・本当は3歳まで休職したいのに、3歳からでは保育園に入りにくいので、0歳から入園できるよう復職する女性や、復職が難しくなることを避けるために早期に復職する人、また保育園に入れず退職してしまう女性も多くなっています。
 - ・安心して子育てができる社会環境と意識改革が必要とされています。
- * **子育てをサポートするシステムが必要とされています。**
 - ・出産から育児、保育所、幼稚園、学校まで子育てしやすい環境を整え、またそれをサポートするシステム（行政と地域力）が必要とされています。
 - ・練馬区の保育サービスの質を維持しながら、家族ごとのライフスタイルにあったメニューも選択できるよう、保育時間などの面において多様なサービスが求められています。
 - ・練馬区では、様々な子育て支援の取り組みがありますが、中には十分に知られていない取り組みもみられます。このため、子育て支援に関わる既存のリソース（資源～人・もの・場所～）を最大限活用していくことが求められます。

(3) 「高齢者・障害者福祉」に係る課題

- ・緊急入院の受け入れが可能な病院など医療環境の整備や、認知症予防・歯科医療の受診体制の整備など健康増進のための取り組みが必要とされています。
- ・障害者に対する正しい理解を促進し、障害者が地域の中で自立した生活が営まれるよう、地域社会全体で障害者の自立を支援していくことが求められています。
- ・市民、事業者、行政が一体的に活動できるような推進制度が求められています。

■ 「高齢者・障害者福祉」に係る課題

- * 緊急入院の受け入れが可能な病院が求められています。
 - ・練馬区は、他区より健康福祉の面では進んでいますが、病床数などの医療の面では遅れています。
 - ・緊急入院の受け入れが可能な病院が不足しています。
- * 認知症予防や歯科医療の受診体制の整備など健康増進のための取り組みが必要とされています。
 - ・認知症予防の活動のネットワークを広げていくことが求められています。
 - ・あらゆる世代が平等に手厚い歯科医療が受診できる体制が求められています。
- * 障害者の自立支援の促進や障害者に対する正しい理解が求められています。
 - ・障害者自立支援法により就労支援事業が推進されていますが、親の高齢化に伴う親子入居可能グループホームの設置などの検討が必要とされています。
 - ・高齢者、障害者が地域の一員として当たり前で暮らせる様なノーマライゼーションの視点が重要となっています。
 - ・障害者の生活のしづらさ、ホスピタリズムに対する理解と啓発を進め、理解をもって人々が生活できるようにすることが求められています。
 - ・外見で分かる障害に対する保障や支援は広がってきていますが、認知症、自閉症、高次脳機能障害、AD/HD（注意欠陥/多動性障害）、LD（学習障害）等外見では分からない障害に対する理解は十分に進んでいません。これらの障害に対する支援の拡大が必要となっています。
- * 市民、事業者、行政が一体的に活動できるような推進制度が求められています。
 - ・市民、事業者、行政が一体的に活動できるような推進制度が必要とされています。
 - ・行政には、地域の相談窓口や関係機関など現在不備がある点を見直していくことが求められています。また、地域でのまとまりを向上させるための組織の見直しなどが求められています。

2. 練馬区がめざすべき将来像

(1) 「悩みや不安を身近で解消できる地域社会」をめざします

- ・誰もが安心して暮らすことができ、身近な地域で、気軽に安心して悩みや不安を相談できる「悩みや不安を身近で解消できる地域社会」をめざします。

<めざすべき将来像1 「悩みや不安を身近で解消できる地域社会」>

- * 支え合いつながりを持てる地域社会
 - ・一人暮らし高齢者が安心して住める町
 - ・地域での連帯感の共有
 - ・つながりをもてる“場”
 - ・経験や知識を活かす支えあいの地域づくり
- * 気軽に悩みを相談でき、情報交換ができる場
 - ・高齢者や、その家族が医療、健康、介護などに関して、安心して相談し、今後どうしたら良いかなどのアドバイスをもらえる。
 - ・高齢者、子育て中の人、軽度の障害のある方、介護者など、少しの時間を集い、そこで息ぬき、情報交換ができる。
 - ・郵便局、薬屋さんで介護の相談が気軽にできる。
 - ・町の商店街に、ほっとステーションのようなものができ、高齢者、子ども、子育て中の親子などが気軽に集い、顔の見える地域
 - ・コミュニティーの場（顔が合わせられる様な場所）



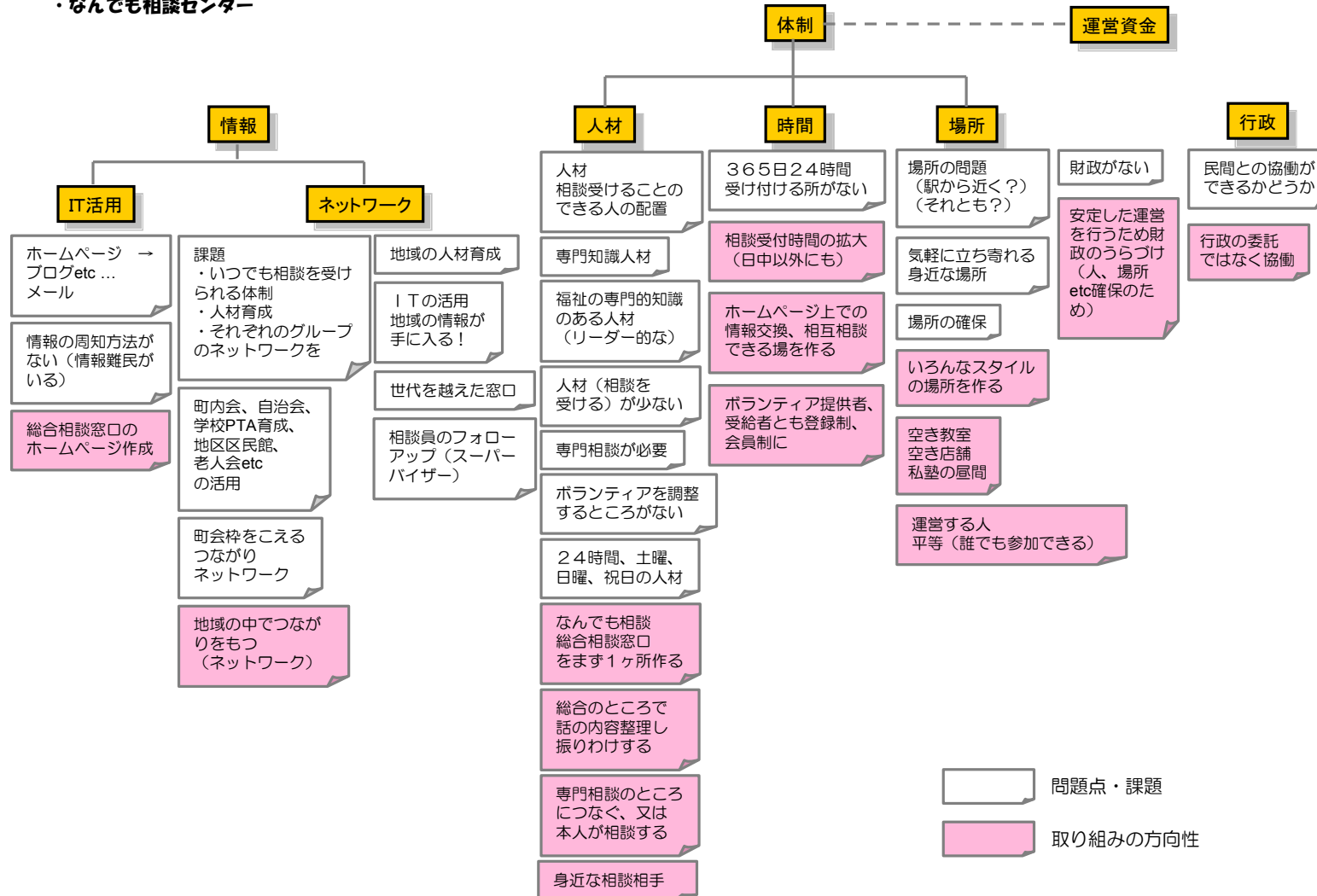
<取り組みの方向性>

- * 身近な地域で気軽に不安や悩みを相談できる仕組みをつくる
 - ・「地域の総合相談窓口」の設置
 - －専門知識や協力意向を持つ人材の確保
 - －身近な地域での場所の確保／柔軟な運営時間の設定
 - －区内企業からの協賛金による運営資金の確保
 - －総合相談窓口のホームページ作成
 - ・総合相談窓口と地域との関係・連携を深める
 - －町会等との関係づくり・連携
 - －地域の専門家との関係づくり・連携
 - ・総合相談窓口と既存の相談窓口との連携を促進する

ー地域の総合相談窓口のイメージ（第3回健康福祉分野分科会 グループ討議結果）ー

- ネーミング
 ・ねりまホットステーション
 ・みんなのかけこみ寺
 ・なんでも相談センター

“地域の総合相談窓口”



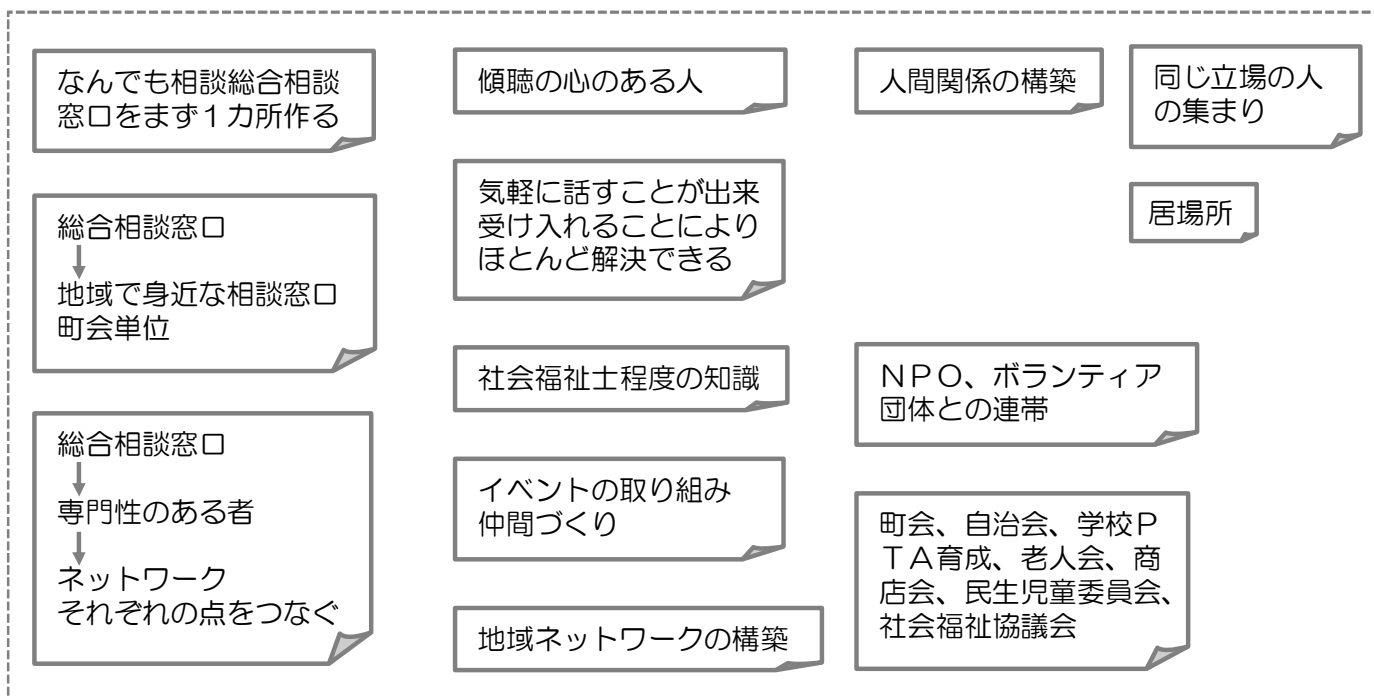
問題点・課題
 取り組みの方向性

－取り組みの方向性のイメージ（第4回健康福祉分野分科会 グループ討議結果）－

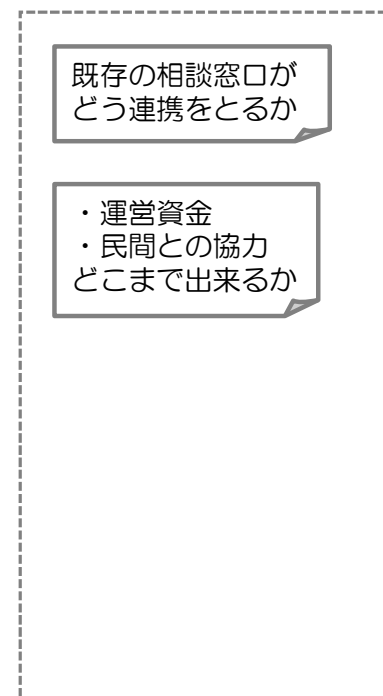
☆取り組みの方向性

～身近な地域で気軽に不安や悩みを相談できるしくみをつくる～

①地域で関係・連携を深める



②相談窓口の連携（既存も含めた）



(2)「子育てする人が引っ越してきたい街 長く住み続けたい街」をめざします

- ・練馬区の子育てしやすい良い面を伸ばしていくことにより、子育て中の家族が、安心して子育てでき、住み続けることができる **「子育てする人が引っ越してきたい街 長く住み続けたい街」**をめざします。

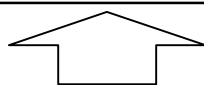
<めざすべき将来像2「子育てする人が引っ越してきたい街、長く住み続けたい街」>

*** 不安なく子育てができる社会**

- ・不安なく子育てができる社会
- ・現代の子育ての大変さへの理解が市民一人ひとりに浸透している状況
- ・虐待、いじめ、非行を最大限予防し、起きた時には最適な対処のできる社会
- ・子育て中の家庭もそうでない家庭も、同様に人生を愉しめる社会

*** 住み慣れた地域で長く住み続けたいまち**

- ・地域で子育てを応援し、住みなれた地域で、老後を迎えることができる
- ・世代を超えて助け合い、住んでいてよかったと思える町（子育て終了世代が若い世代を応援する、あるいは、今の10代が練馬で子育てをして、親の世代や障害のある人を支えていける）
- ・子育てする人が一度居ついたら居続けたくなる街



<取り組みの方向性>

*** 子育て時期に応じた既存リソース（資源一人・もの・場所一）の活用**

- ・妊娠・出産期
 - －助産師・保健師・ひろば・保育園等のリソースの活用
 - －赤ちゃん訪問事業*の採用 /等
- ・乳幼児期（在宅）
 - －子育てバウチャー（クーポン）の普及
 - －ひろばの増加・内容の充実 /等
- ・乳幼児期（幼保育園）
 - －メールを活用した情報提供
 - －子育てマップ等のホームページ事業 /等
- ・小学生期
 - －プレイパークの常設
 - －学校施設の地域住民・乳幼児など他の世代を対象とした利用の促進 /等
- ・中・高生期
 - －思春期の子育て支援 /等
- ・青年期
 - －青年期特有の問題に関する情報収集と問題の明確化 /等

※厚生労働省：生後4か月までの全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）

－子育て時期に応じたリソースの活用アイデア－

(第4回健康福祉分野分科会 グループ討議結果) ※第3回の討議結果を踏まえ表形式で整理

	妊娠・出産	在宅→幼 乳 幼 児	保育園	小学生	中・高生	青年期
方向性	既存のリソース(資源－人・もの・場所－)を活かす					
リソース	<ul style="list-style-type: none"> *助産師 *保健師 *ひろば *保育園 	<ul style="list-style-type: none"> *幼・保の未就園児サービス *ひろば －子育てのひろば「びよびよ」 －子育て中の親同士の交流の場「にここ」 	<ul style="list-style-type: none"> *民間ホムーンズ －子育てマップ *保育園 －病児保育 －延長保育 	<ul style="list-style-type: none"> *イベント型プレイパーク *学校 *児童館 *区民館 *学童保育 	<ul style="list-style-type: none"> *学校 *児童館 *区民館 *スタジオ 	<p>(不明)</p> <p>※想定される問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット問題 ・徘徊 ・リストカット ・ニート ・引きこもり ・摂食障害 等
具体的アイデア	<ul style="list-style-type: none"> ☆上記リソースの活用 ☆赤ちゃん訪問事業の採用 	<ul style="list-style-type: none"> ☆子育てパウチャーorクーポン ☆ひろばの増加・内容の充実(アウトリーチ、レスパイト) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆メール活用による情報提供 ☆ホムーンズ事業 －マップづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ☆プレイパークの常設 ☆充実した学校施設の多様な利用 －地域住民 －乳幼児など他の世代 ☆地域と学区を一致させるよう戻す 	<ul style="list-style-type: none"> ☆思春期の子育て支援 ☆児童館・区民館の夜間開放(民間委託) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆情報収集による問題の明確化 ☆親支援

(3) 「地域の人と関わり支え合いながら高齢者、障害者の方が明るく暮らせるまち」をめざします

- ・高齢者や障害者の方が住み慣れた地域で健康で明るく暮らせる「地域の人と関わり支え合いながら高齢者、障害者の方が明るく暮らせるまち」をめざします。
- ・あらゆる世代が基本的人権を理解し、守ることで、高齢者や障害者に対する理解の輪を広め、地域における専門家を含めたネットワークの形成をめざします。

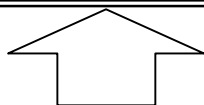
くめざすべき将来像3 「地域の人と関わり支え合いながら高齢者、障害者の方が明るく暮らせるまち」>

*** 地域の人との関わり、支え合い**

- ・子どもからお年寄り、障害者までお互いをたすけあえる社会
- ・高齢者や障害者が地域で自分なりの生きがいや励みとなるもの、あるいは人とのつながりをもって生活できる
- ・住みなれた町、地域で過ごせるようにする
- ・地域社会の自立・共生

*** 高齢者、障害者の方が明るく暮らせる**

- ・高齢者、障害者が地域の一員として当たり前で暮らせる
- ・認知症を発症しても、地域の人に支えられて暮らせる町
- ・都内で一番認知症予防に力を入れている町
- ・認知症の人が住み慣れた町
- ・子どもからお年寄りまで誰しものが、何の不安もなく心身ともに健康で生きていけるまち
- ・医療の充実したまち
- ・健康年令が延びている
- ・小、中学校で介護施設などの施設で、ボランティアと交流が盛ん



<取り組みの方向性>

*** 健康・医療の充実**

- ・総合的な健康予防ステーションの設置
- ・高齢者、障害者が安心して住める場所（グループホーム、ケアホーム）の確保
- ・在宅を支える、かかりつけ医の確保
- ・軽度の肺炎、発熱などで緊急入院できる病院の確保
- ・24時間対応できる電話相談、医療機関の整備 / 等

*** 地域福祉の理解とネットワーク**

- ・小学校の空き教室を利用した、障害者の方が地域の人と遊ぶことができる場の確保
- ・使い易い成年後見制度の普及 / 等

—健康福祉分野分科会 第3回・第4回グループ討議結果—

健康・医療の充実

サービス

緊急通報のシステム
の充実

認知症予防事業
の充実、啓発

社会的入院の方々の退院
促進を支援する（精神）

要介護になる前の元気な
方々がより健康を保てる
様にフィットネスなど
ウェルネスの充実

高齢者、障害者の健康予防ス
テーションの設置（総合的）

医療

（在宅）医療機関の
ネットワーク作り

24時間対応できる
電話相談、医療機
関の整備

緊急入院（軽度の肺炎、
発熱などで）出来る病
院があるとよい

在宅を支える
かかりつけ医の紹介（推進）

心障者及び在宅要介護
高齢者歯科診療事業対
象者への周知

専門病院が区内にない。

要介護予防事業の周知

施設

公共施設の有効活用

小規模多機能型居宅介護
グループホームの充実

高齢者、障害者が安心して住める場所
（グループホーム、ケアホーム）

事業体

NPO法人の
設立助成

障害者や高齢者の
コミュニティーの
閉鎖的な環境の打破

第3回討議結果

第4回討議結果

（第3回討議結果に追加・一部重複）

